

容器包装に関するアンケート調査結果 について (JSPEN2026)

本会では、2月13日(金)・14日(土)、パシフィコ横浜にて開催された、日本臨床栄養代謝学会学術集会(JSPEN2026)会場において、UDFに関するアンケート調査を実施しました。回答数は280名で、来場者である医療・栄養分野の専門職から回答を得ました。本稿では、職種別クロス集計を中心に、医療現場におけるUDF認知と在宅介護におけるUDFの容器包装に関するアンケート結果を紹介します。

回答者の属性

回答者の所属は病院勤務者が239名と最も多く、全体の約85%を占めました。職種は管理栄養士・栄養士(94名)、看護師(89名)、薬剤師(51名)、言語聴覚士(19名)、医師(10名)など、摂食嚥下や栄養管理に関わる専門職が中心です。

UDF認知は職種により大きな差

UDF認知を職種別にみると、大きな差が見られました。管理栄養士・栄養士では「知っている」が95.7%と極めて高く、言語聴覚士でも78.9%でした。一方、医師は40.0%、看護師21.3%、薬剤師9.8%にとどまり、薬剤師では66.7%が「知らなかった」と回答しています。この結果から、UDFは栄養管理や嚥下リハビリに関わる専門職では広く認知されている一方、医療チーム全体の共通認識としては十分に浸透していない可能性が示唆されます。

家庭介護では「電子レンジ対応」が重視

回答者には家庭での利用視点で回答いただきました。この結果、「容器のまま電子レンジで加温できること」を重視する回答が多く見られました。職種別でも、医師80.0%、薬剤師54.9%、看護師49.4%と、簡便な加温方法を重視する傾向が確認できました。

また、パッケージに必要な機能についても同様で、「電子レンジ加温対応」を求める回答は、管理栄養士・栄養士74.5%、看護師69.7%、薬剤師80.4%、言語聴覚士78.9%、医師80.0%と、すべての職種で高い割合となりました。

この結果は、在宅介護では調理負担の軽減が重要であり、簡便に加温できる容器形態が求められていることを示しています。

内容量は「使い切りサイズ」が主流

内容量については、「使い切りサイズ」を希望する回答がすべての職種で多数を占めました。管理栄養士・栄養士88.2%、看護師84.1%、薬剤師86.3%、言語聴覚士78.9%、医師100%と、いずれも高い支持が見られます。

高齢者の食事量には個人差があり、衛生面から、家庭介護では一食ごとに使い切れる容量が望まれていると考えられます。

医療と在宅をつなぐ食品情報の重要性

本調査から、UDFは栄養士や言語聴覚士には広く認知されている一方、医療職全体では認知拡大に課題があることが明らかになりました。また、在宅介護では「電子レンジ加温」「使い切り容量」といった簡便性へのニーズが明確に示されました。

今後、高齢化に伴い在宅への移行が進むなかで、医療現場の食形態情報と家庭で利用可能な食品をいかに結びつけるかが重要になります。UDFはその橋渡しとなる指標として、今後さらに重要性を増すと考えられます。

【会議、催事等の予定】

5月12日(火) 第2回やわらか和食「口福膳」に学ぶ講習会

5月19日(火) 第6回容器包装研究会

【UDF商品登録状況(2,391品目・3月末現在)】

	区分1	区分2	区分3	区分4	とりみ調整	拡張	合計
乾燥食品	0	15	7	1	59	5	87
冷凍食品	350	288	797	58	0	0	1,493
常温食品	256	51	319	184	1	0	811
合計	606	354	1,123	243	60	5	2,391

【会員の異動(3月)】

計97社(3月末現在)。

◎日本介護食品協議会では会員企業を募集しています。協議会とユニバーサルデザインフードについては事務局までご連絡下さい。

事務局：東京都千代田区神田東松下町10-2

翔和神田ビル3階

TEL 03-5256-4804

FAX 03-5256-4805

<https://www.udf.jp/>